

添田寿一 官僚、政治家。日本人初のケンブリッジ大留学生で、金本位制実施や台銀・興銀ほか多方面指導。

そえだじゅいち

禁門の変・1864 = 筑前(福岡県)で、福岡藩士添田新三郎の三男に生まれる。

明治維新・1868 = 4歳 : 維新後、父は村長になっていたが、うまく行かず、
初の日刊新聞1870 = 6歳 : 一家で、京阪へ出、東京に移住。

明治6年政変 1873 = **9歳** :

早くから美しい書で有名になり、その書売って家計を助けるうち、

..... 1880 = 16歳 : 旧藩主の黒田氏からの命で、東京大学に入学し、

明治14年政変1881 = 17歳 :

新体詩抄・1882 = **18歳** :

内閣発足・1885 = 20歳 : 卒業、大蔵省主税局御用掛となるも、旧藩主の子黒田長成留学の付添いに選ばれて渡英、ケンブリッジ大のキングス・カレッジに籍を置いて、政治経済を学ぶとともに、ケンブリッジ・エコノミック・クラブの会員となり、後に会長になるほどの才能を發揮、

国民之友始・1887 = 23歳 : 帰国すると、大蔵大臣側近となり、
大蔵省主税官・参事官・大臣秘書官・書記官・監督局長を歴任、

帝国憲法発布1889 = 25歳 :

大津事件・1891 = **27歳** : その間、早大・専修学校・学習院・高等商業学校・東大などで経済学の講義を担当、

郡司千島探検1893 = 29歳 : *創刊されたばかりの{エコノミック・ジャーナル}誌日本特派員となり、以後、無償のまま生涯続ける。

日清戦争始・1894 = 30歳 :

日清戦争終・1895 = 31歳 : 日清戦争に勝利し、日本が多額の賠償金を得るようになったことなどから、
金本位制についての日本の立場など、西洋読者向けの記事を精力的に執筆、ボストンの{ポリティカル・サイエンス・クォーターリー}にも寄稿する。

子規句歌革新1898 = 34歳 : 大蔵次官に就任した。

Bushidou・1899 = 35歳 : 法学博士。台湾銀行創立と同時に、頭取となり、

ビアノ国産化・1900 = **36歳** :

教科書疑獄・1902 = 38歳 : *実現に尽力してきた日本興業銀行の創立とともに、総裁に就任した。

日露戦争終・1905 = 41歳 :

伊藤博文暗殺1909 = **45歳** :

大逆事件判決1911 = 47歳 : フランスが日本と合併の日仏銀行設立の話を持ち込んで来た際、日本側代表となり、

明治天皇没・1912 = 48歳 : パリで日仏銀行が発足するなどしたが、

大正政変・1913 = 49歳 : 日本興業銀行総裁を辞任。

以後、中外商業新報社長に就任を手始めに、

21ヶ条要求・1915 = 51歳 : 第2次大隈重信内閣成立とともに、*鉄道院総裁となり、

本格政党内閣1918 = **54歳** :

のち、報知新聞社長、同社顧問を経て、

原敬首相暗殺1921 = 57歳 :

同社顧問となるなど、

多面的活動をしていたが、

治安維持法・1925 = 61歳 : この年、*{エコノミック・ジャーナル}に最後の記事を送る。勅選貴族院議員となり、

円本時代始・1926 = 62歳 : 台湾銀行の非常勤特別監査役となって、銀行業に復帰するも、

金融恐慌・1927 = **63歳** :

世界恐慌・1929 = 65歳 : 没した。